

これまでの主なご意見（要点）（案） - 第1回部会～第7回部会終了時点 - <注> は、複数の委員が挙げられた意見

諮問事項「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」

| 基礎的・汎用的能力の明確化と、その育成の在り方 | 後期中等教育における職業教育の在り方 | 高等教育における職業教育の在り方 |
|---|--|---|
| <p>【問題点・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生・生徒の興味・関心からの指導に偏り、社会的役割を果たす観点からの指導が不足 教員のキャリア教育に対する意識、指導力が不足 職業倫理や職業観の欠如、職業が見えにくくなっている傾向 職人やものづくり等への社会的評価が低い傾向、理工系の処遇等に問題 「労働市場知識」（労働者としての権利等）の扱いが不十分 など このような問題点・課題を踏まえ検討 <p>【検討すべき事項(案)】</p> <p>以下のような学校から社会・職業への移行に必要な基礎的・汎用的能力について、その内容の明確化、発達段階に応じた育成方策、評価方策等を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション能力(特に聞く力) 粘り強さ(ディシプリン-鍛錬-に通ずる)、我慢(継続) 自ら課題を発見し、解決を図る力、自ら目標を立て、行動する力 変化や未知の問題等への対応力、職場が変わっても生き抜ける力 経験から学ぶ力 仲良くする能力(協調性) 社会力(社会をつくる力、共に生きる力) 段取りを組んで取り組む力 など <p>「キャリア教育」、「職業教育」の定義の明確化 など</p> <p>【検討の方向性・留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域コミュニティ、産業界との連携が必要 国としてのミッション、学校の果たすべき役割の明確化が必要 国立教育政策研究所の4領域8能力や社会人基礎力等を踏まえた整理が必要 職業教育を通じた基礎的・汎用的能力の育成という観点も重要 若年期のみならず、生涯を通じたキャリア形成の観点が重要 国際的な職業資格制度の共通化の動向等を踏まえた検討が必要 連続性、計画性のある取組が必要 職業資格を微細に固定化すると、柔軟な対応ができなくなるおそれ 求められる能力やアウトカム、教科を通じた横断的能力について共通理解が必要 観念的ではなく、社会に貢献できる人材として必要なコンピテンシーを明確化し、身につけさせることが必要 コンピテンシーを細分化しすぎないことが必要 きれいごとだけでなく、社会の現実を踏まえた検討が必要 身近な問題を通じ、全教科で取り組むことが必要 学生・生徒のニーズの多様性を踏まえることが必要 短期的な進路指導にとらわれ過ぎないことが必要 など | <p>【問題点・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> モラトリアムな進学志向や大学受験対応への偏りなど、普通科の実態に特に課題がある 専門高校を普通科高校より低レベルに見る風潮 実習が少なく座学中心の教育方法 職業教育と実生活との「移行の架橋」が弱い ミスマッチや離職が発生 技能を軽視する傾向 など このような問題点・課題を踏まえ検討 <p>【検討すべき事項(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国としてのミッション、高校の各学科(普通科、専門学科、総合学科)の在り方(意義・機能)の検討 専門高校における職業教育の在り方、専攻科の在り方(設置基準、本科と接続した5年一貫教育等)、生徒数、教員数、設備面で厳しい状況にある中での広域連携等振興策の検討 地域(特に産業界)との連携を強化するために必要な方策(例えばカリキュラムの策定の際の連携、コーディネーターの確保等)の検討 高校において誰もが学ぶべき職業教育の在り方(例えば「産業社会と人間」、インターンシップ、課題研究等)の検討 職業教育の質の保証についての検討 など <p>【検討の方向性・留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高等教育機関との円滑な接続の観点が重要 職業教育の体系を確立していくという観点が重要 社会の変化や多様化する生徒のニーズ等を踏まえた検討が必要 15歳の段階で職業教育を選択しやすくする配慮が必要 現行制度の下で、できることとできないことの整理が必要 後期中等教育から直接職に就く者への十分な対応が必要 普通教育を専門教育に接近させる方向性が適当 国際的な職業資格制度の共通化の動向等を踏まえた検討が必要 社会の変化に素早く対応できる等の特質を持つ高等専修学校も含めた検討が必要 職業資格を微細に固定化すると、柔軟な対応ができなくなるおそれ 高校教育の質の保証という観点が重要 各専門分野に共通する部分を見出していくことが必要 諸外国における高校教育の柔軟化への取組(座学と職業訓練の組み合わせ等)を踏まえることが必要 各国ごとにベースとなる実情は異なっていることを踏まえることが必要 | <p>【問題点・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会の要請(高度な知識・技能等)と、大学等で教えていることとの間に大きなギャップ 実習が少なく座学中心の教育方法 職業教育と実生活との「移行の架け橋」が弱い ミスマッチや離職が発生 無試験に近い状態で入学し、引き続き普通教育を受けることによる目的・意欲の喪失 就職部をキャリアセンターに名称変更しているが、就職指導・就職支援は混迷 大学等が専門的知識・技能を身につけさせる場としてほとんど評価されていない 大学等からの情報発信(教育のミッション、学生につけた付加価値等)が不足 など このような問題点・課題を踏まえ検討 <p>【検討すべき事項(案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国としてのミッション、各高等教育機関が果たすべき役割・機能、分担関係の明確化 職業教育における後期中等教育と高等教育の円滑な接続や、高校生等の進学に際しての選択肢の拡大等のために必要な方策(例えば、技能系の生徒等が高等教育を受ける機会の整備、専攻科からの大学編入学、職業教育に特化した新たな高等教育機関の創設等)の検討 社会人、若年無業者等の学び直しの促進に向けた方策の検討 各高等教育機関における職業教育の活性化に向けた方策の検討 職業教育を担う教員に求められる資質(例えば実務経験)の検討 など <p>【検討の方向性・留意点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業教育の体系を確立していくという観点が重要 現行制度の下で、できることとできないことの整理が必要 求められる知識・技能の高度化等に対応するため、産業界との連携の強化が必要 国際的な職業資格制度の共通化の動向等を踏まえた検討が必要 各国ごとにベースとなる実情は異なっていることを踏まえることが必要 各専門分野に共通する部分を見出していくことが必要 職業資格を微細に固定化すると、柔軟な対応ができなくなるおそれ 職業を核とした教育機会、教育プログラムを整備することが必要 高等教育の理念や社会的責任を踏まえた検討が必要 など |

基礎的・汎用的能力の育成は職業教育を通じても行われるものであるなど、テーマ と ・ は相互に重なりうる部分があることに留意。